令和５年度土砂災害防止　作文　【 土木部長賞 】

「土砂災害から命を守るために」

三豊市立桑山小学校　５年　岩田　紗奈　さん

土砂災害が起きて、たくさんの被害を受けているというニュースをよく聞きます。最近では、７月に九州北部で起こった土砂災害の映像を見ました。土砂災害が起こると、流れてきたどろが家に入ったり、道路に土砂がたまることで身動きがとれなくなったりした人もいたそうです。土砂災害は、台風や集中豪雨、長雨、地震などが原因となって起こることが多く、山や傾斜地が多い日本では土砂災害が起きやすいそうです。そこで、土砂災害から国民の命を守るため、土砂災害防止法が作られており、災害のおそれがある区域を明らかにし、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地抑制、既存住宅移転促進などの対策を推進しているそうです。また、大雨による土砂災害の危険性が大きくなったとき、避難の参考になるように、都道府県と気象庁が共同で土砂災害警戒情報を発表します。

そこで、わたしたちができることはないのか考えてみました。まず、今住んでいる地域のハザードマップを見てみました。ハザードマップには、避難場所や緊急連絡先、防砂関連施設の情報の他、防災アプリの活用についても書いてありました。わたしが住んでいる地域の避難場所を確認してみると、わたしの通っている小学校は洪水時には避難所として使えるが、土砂災害時は不適と書かれていました。避難不適な施設だったのでおどろきました。マップをよく見てみると、小学校や自宅周辺は土砂災害警戒区域（土石流）にあてはまることが分かりました。なので、土砂災害警戒情報が発表された時は遠くの避難所まで行かなくてはいけないので早めの行動が大切だと思いました。警戒情報を正しく早く受信するために防災アプリをインストールすることも大事だと思いました。早速お母さんに話してみると、既に防災アプリをインストールしているとのことで、安心しました。わたしはまだ自分専用のスマートフォンを持っていませんが持つようになったら、防災アプリをインストールしたいと思います。

次に、土砂災害に被災して避難する時に気を付けることを調べました。二つあります。一つ目は、土石流の場合です。土砂の流れる方向に対して直角に逃げます。二つ目は、崖崩れの場合です。すぐに山や崖からはなれます。深夜の突然の豪雨により早期避難ができない場合があるかもしれません。そのような場合は無理に避難所に向かわずに、高くて頑丈な建物に避難したり、川に近い場所ではより標高の高い場所に避難したりするのもよいそうです。これらの避難も難しい場合は、屋内避難も視野に入れて行動するとよいそうです。なお、屋内避難する場合は、できるだけ斜面側からはなれた、より高い所に避難するとよいそうです。土石流や崖崩れで逃げ方が違うの

で気を付けようと思います。そして、避難する時に注意することを合言葉にしてみました。㊀㊉㋒㋐㋑です。㊀㊉は、㊀㊉で避難しないです。特に子どもは大人といっしょでないと避難してはいけません。㋒は、㋒ざまで流れる水があったら歩けないので注意です。流れる水があると歩けないので無理に移動しなくてよいです。㋐は、しばらく㋐つです。雨がやんでも、とつぜん水のかさが増えることがあるのでしばらく待ちます。㋑は、㋑ごった水は深さがわからないので注意です。急に深くなったりしてあぶないので注意します。わたしは、土砂災害が起こった時は㊀㊉㋒㋐㋑を守って避難したいです。

土砂災害が起こると大変なことになってしまうと知ったので、これからは土砂災害は自分にも関係あると思って生活していきたいです。土砂災害警戒情報を正しく受信して、すぐに避難したいです。土石流の場合は土砂が流れる方向に直角に逃げて、崖崩れの場合は山や崖がはなれていくことがわかりました。自分で作った㊀㊉㋒㋐㋑を守りたいです。